

露地エンドウのナモグリバエ寄生蜂の発生状況

[研究のねらい]

栽培終期の露地エンドウから、ナモグリバエに寄生した寄生蜂が大量に得られます。この寄生蜂を利用して、野菜の重要害虫トマトハモグリバエの防除技術を確立するため、寄生蜂の発生時期および発生種を明らかにします。

[研究の成果]

- ①寄生蜂（写真1）の発生は3月中下旬から認められ、エンドウの栽培が終了する4月下旬～5月上旬まで増加します（図1）。
- ②3～5月の期間に、約30種の寄生蜂が発生します。
- ③イサエアヒメコバチ（市販天敵「イサエアヒメコバチ剤」と同種）は、全体の10～50%程度を占めます。

[成果の活用面・留意点]

- ①ナモグリバエの寄生蜂のうち、イサエアヒメコバチなど数種はトマトハモグリバエの天敵として有効に働きます。エンドウ葉からたくさん採集できるので、低コストで防除に利用できます。



写真1 露地エンドウのナモグリバエから羽化する寄生蜂

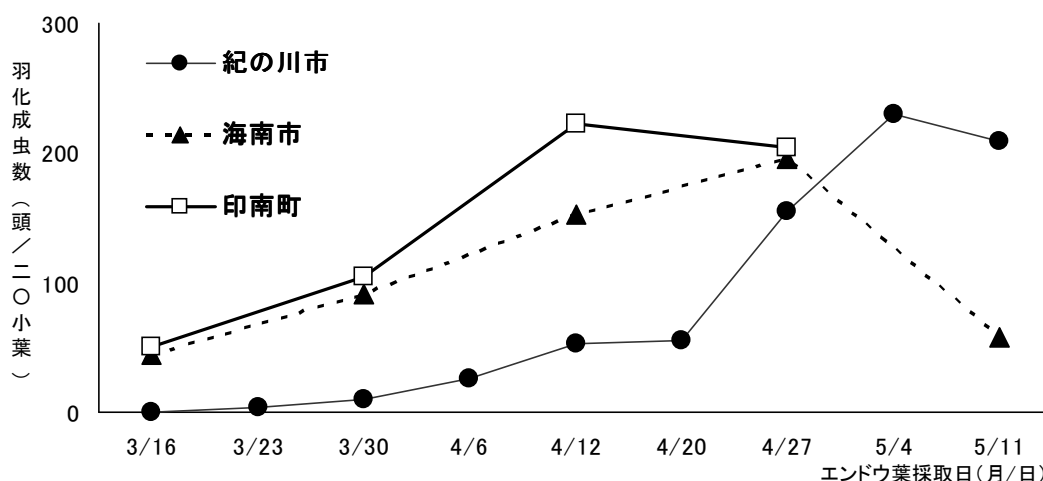


図1 露地エンドウ下位葉からのナモグリバエ寄生蜂の羽化数(2004年)

実施年度：平成16～18年

担当者：福嶋総子、井口雅裕、岡本 崇